



「先生!紙が凍ってる」

雪が降り積もった木曜日の朝、子どもたちからそんな声が届きました。初めてみた紙の状態に驚きながらも、新しい発見に目を輝かせていました。

4年1組では夏休み明けから紙作りに取り組んでいます。きっかけは、熱中していた折り紙がすぐに終わってしまうことでした。最初は「そもそも紙ができるのか」というところからのスタートでしたが、牛乳パックを材料にして1枚の紙ができたことをきっかけに、子どもたちの様々な試しが始まっていきました。パルプ(紙の材料)を牛乳パックから他の材料(トイレtpーパー、画用紙、植物、紙袋、ダンボールなど)に変えてみたり、パルプに絵の具で着色してみたりと、一人ひとりが



自分の試したいことを試していきます。

活動が広がりを見せる中、それまでは紙作りに積極的だった S さんが、紙づくりにあまり積極的に取り組んでいない姿に気づきました。「どうしたのかな」という思いで、S さんに声をかけました。すると S さんはクラスの紙作りに対して思っていることを語り始めます。「この前紙作った時にも、いっぱい作ったんだけど、作りすぎちゃったんだよね。もったいなかった。」ということから話が始まり、さらに



は「紙を作って終わりにっていないか」「本当に折り紙を作れているのか」「リサイクルでやったものが、その後使われているのか」「捨てるなどということじゃないんだけど、ものは大切な資源だから、作ったものをどう使うかが大切なんじゃないか」と、S さんの思いが溢れてきました。S さんが考えていることは、担任も含めて私たちがどのように紙作りに向かうのかが問われているのではないかと感じ、S さんの言葉をクラスの子どもたちにも届けました。



S さんの思いを受け取りながら、まずは作ってみようと活動が続いています。

紙作りは難しいと感じていた M さんも「初めてうまくできた!」と嬉しそうに紙を見つめています。S さんは「自分には何ができるかな」と考え、世の中に
出回っている和紙について調べていました。そのことをクラスの仲間に届けようとパワーポイントにまとめています。

担任にとってもチャレンジな紙作り。子どもたちと一緒に取り組んでいきたい
と思います。

